

2016年3月期 中間決算説明会資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

財務IR部 IRグループ

TEL: 03-3248-2167

E-mail: irinfo@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

主力事業が好調に推移し、通期では過去最高益を見込む

単位：億円

		2016年3月期																
		第2四半期(累計)				第3・4四半期(累計)				通期								
		実績	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		中計比	
			増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減	中計	増減
加工食品	1,001	35	4%	1,017	-16	984	11	1%	1,023	-39	1,985	46	2%	2,040	-55	1,842	143	
水産	340	-6	-2%	333	7	349	9	3%	355	-6	689	2	0%	688	1	650	39	
畜産	450	30	7%	418	32	431	-44	-9%	422	9	881	-14	-2%	840	41	735	146	
低温物流	917	27	3%	917	-0	903	10	1%	920	-17	1,820	37	2%	1,837	-17	1,790	30	
不動産	23	-1	-6%	23	0	24	1	4%	24	-0	47	-0	-1%	47	0	48	-1	
その他	23	6	32%	21	2	26	-0	-2%	25	1	49	5	12%	46	3	45	4	
調整額	-101	-1	-	-105	4	-99	-4	-	-103	4	-200	-4	-	-208	8	-198	-2	
売上高合計	2,653	89	3%	2,624	29	2,618	-18	-1%	2,666	-48	5,271	71	1%	5,290	-19	4,912	359	
加工食品	34	13	62%	31	3	34	1	3%	34	-0	68	14	26%	65	3	82	-14	
水産	1	-1	-55%	2	-1	3	3	-	3	-0	4	2	63%	5	-1	7	-3	
畜産	3	1	57%	2	1	3	1	65%	3	-0	6	2	60%	5	1	7	-1	
低温物流	53	12	29%	43	10	47	1	2%	48	-1	100	13	15%	91	9	90	10	
不動産	11	1	8%	10	1	10	-1	-10%	11	-1	21	-0	-1%	21	0	21	0	
その他	4	2	217%	2	2	2	-2	-47%	3	-1	6	0	6%	5	1	5	1	
調整額	-3	-1	-	-2	-1	-2	-4	-	-3	1	-5	-5	-	-5	0	-8	3	
営業利益合計	104	27	35%	88	16	96	-1	-1%	99	-3	200	26	15%	187	13	204	-4	
経常利益	103	27	36%	84	19	91	-2	-2%	96	-5	194	25	15%	180	14	197	-3	
純利益	63	21	49%	53	10	57	4	7%	60	-3	120	25	26%	113	7	120	0	

為替レート	2015年度	2015年度	2014年度
	見込	実績	実績
米ドル/円	122.00	120.24	102.47
ユーロ/円	135.00	134.17	140.43

ROE(株主資本利益率)	8.9%	1.4%	8.4%	0.5%	8.8%	0.1%
EPS	42円	9円	27%	40円	2円	

注：①当期より加工食品事業の売上の計上基準について会計方針を変更(販売促進費等を販売費計上ではなく売上高から控除する方法へ変更)しています。これに伴い、前期の数値も遡及修正を行っています。詳細は12ページを参照ください。
②為替レートの実績は1月～6月までの期中平均で算出しています。

- 1.売上高は主力の加工食品と低温物流が全体を牽引し増収。通期でも増収を見込む。
- 2.営業利益は加工食品と低温物流が増益に寄与。通期でも26億円の大増益を見込む。
- 3.通期見込を変更。通期で営業利益、経常利益、純利益すべてにおいて過去最高益を見込む。

中長期的な経営基盤の強化

1. コア事業を軸とした持続的成長の実現

- (1) 国内は資産効率の追求による利益成長の実現
- (2) 海外は事業規模の拡大による売上・利益両面の成長

2. 持続的成長に向けた資本・負債の有効活用

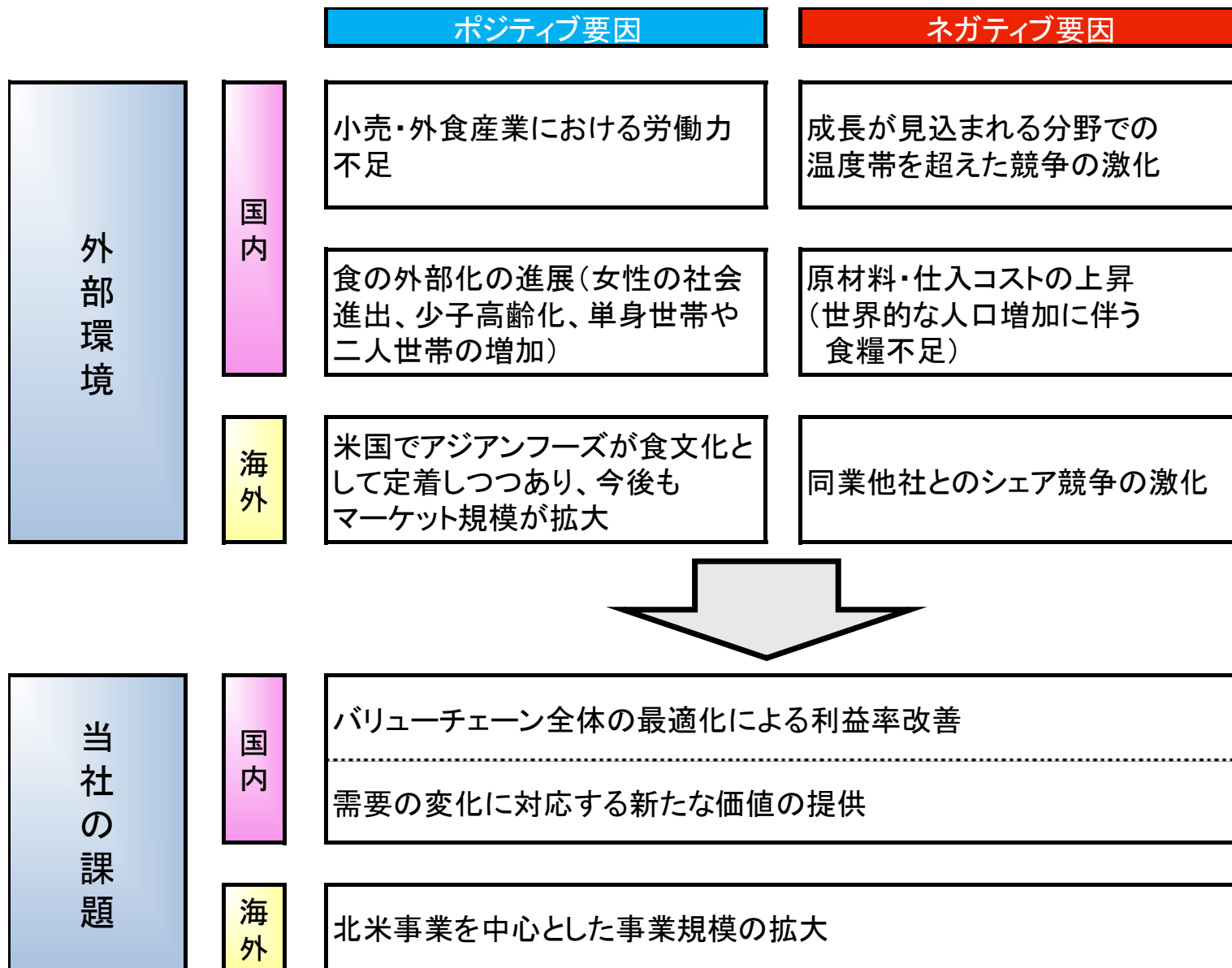
- (1) 成長投資の継続
- (2) 財務戦略
 - ① 財務の健全性維持
 - ② 資本効率重視
 - ③ 安定的・継続的な株主還元の実現

ESGに配慮した経営の推進

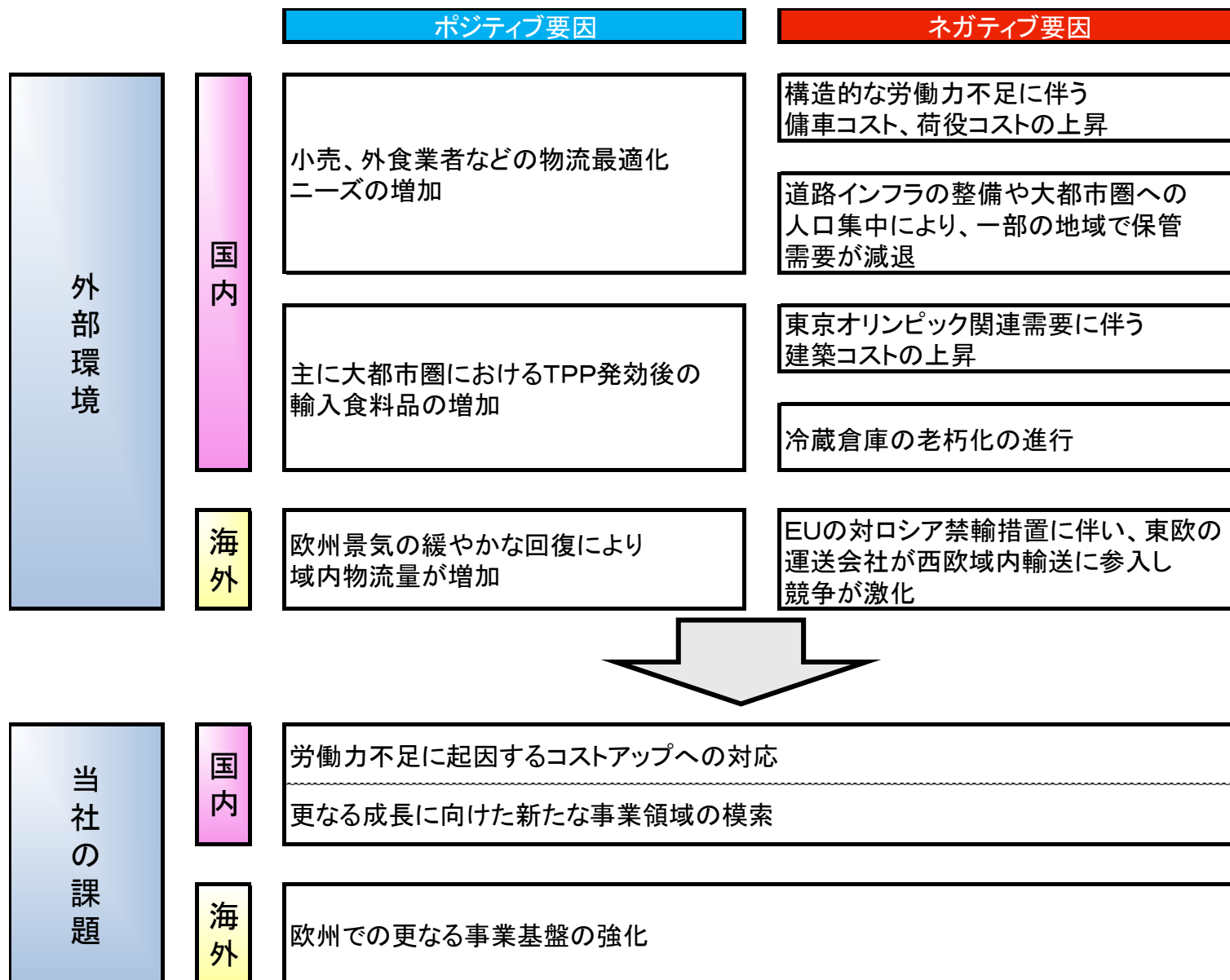
グループCSR基本方針「6つの責任」を2005年に制定

- ① 新たな顧客価値の創造
- ② 働きがいの向上
- ③ コンプライアンスの徹底
- ④ コーポレートガバナンスの確立
- ⑤ 環境への配慮
- ⑥ ニチレイらしい社会貢献の推進

加工食品事業の外部環境と当社の課題



低温物流事業の外部環境と当社の課題



加工食品事業

利益改善策が奏功し、営業利益は期初見込を上回って推移

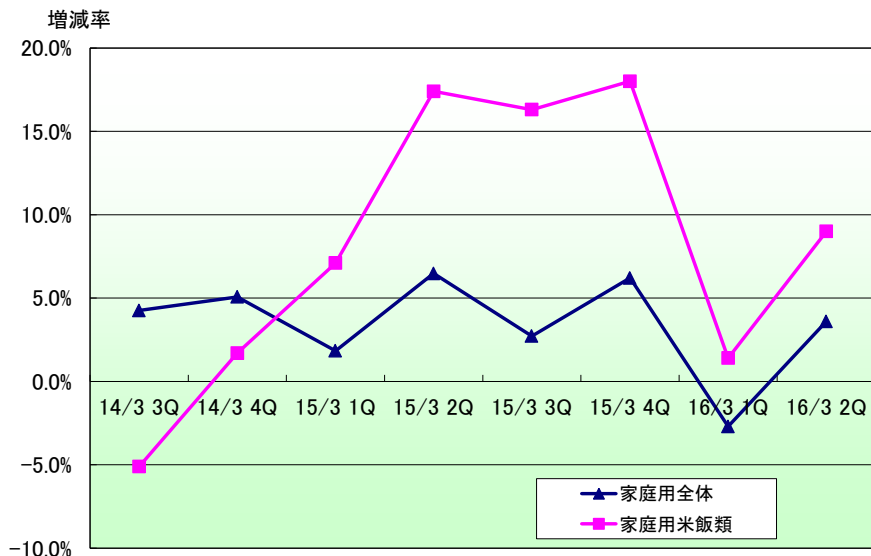
単位: 億円

		2016年3月期														
		第2四半期(累計)					第3・4四半期(累計)					通期				
		実績	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減		見込	増減	率	前回見込
加工食品	売上高 計	1,001	35	4%	1,017	-16	984	11	1%	1,023	-39	1,985	46	2%	2,040	-55
	家庭用調理品	227	1	1%	230	-3	242	6	2%	242	-0	469	7	2%	472	-3
	業務用調理品	422	-15	-3%	445	-23	444	-1	-0%	469	-25	866	-17	-2%	914	-48
	農産加工品	99	9	10%	91	8	84	2	2%	82	2	183	10	6%	173	10
	海外	153	29	23%	152	1	147	5	3%	157	-10	300	33	13%	309	-9
	その他	99	11	13%	99	-0	68	-0	-0%	73	-5	167	11	7%	172	-5
	営業利益	34	13	62%	31	3	34	1	3%	34	-0	68	14	26%	65	3

注: 売上高は、15/3、16/3ともに売上計上基準の変更(従来、販売費で計上していたものの一部を売上高から控除)による影響を反映

1. 家庭用調理品は2QでテレビCMを放映した主力の米飯類が伸長し増収。業務用調理品は利益率を重視した商品施策の徹底により減収。営業利益は円安による原材料・仕入コスト増が継続したが、前期実施の価格改定を含む利益改善策が寄与し増益。
2. 下期も引き続き円安による原材料・仕入コスト増の影響を受けるが、上記の価格改定の効果に加え、国内生産体制強化による集約・効率化の寄与も高まり増益を見込む。

当社の家庭用調理冷蔵(米飯類)の売上高 前年比増減率推移



業務用調理品 新「春巻」

新「春巻」の3つの特徴

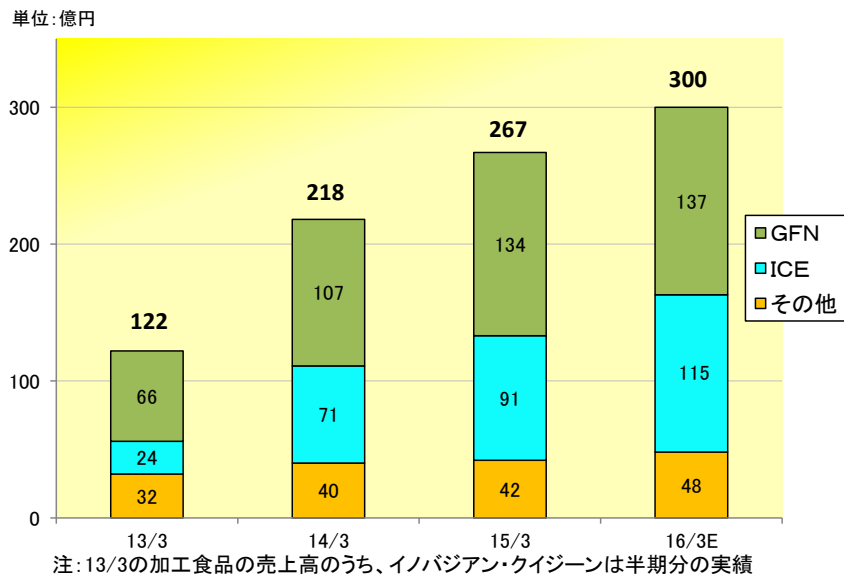
- ①パリッと軽い食感と艶やかな外観
- ②圧倒的な具材感
- ③手作りのようなふっくらした形状



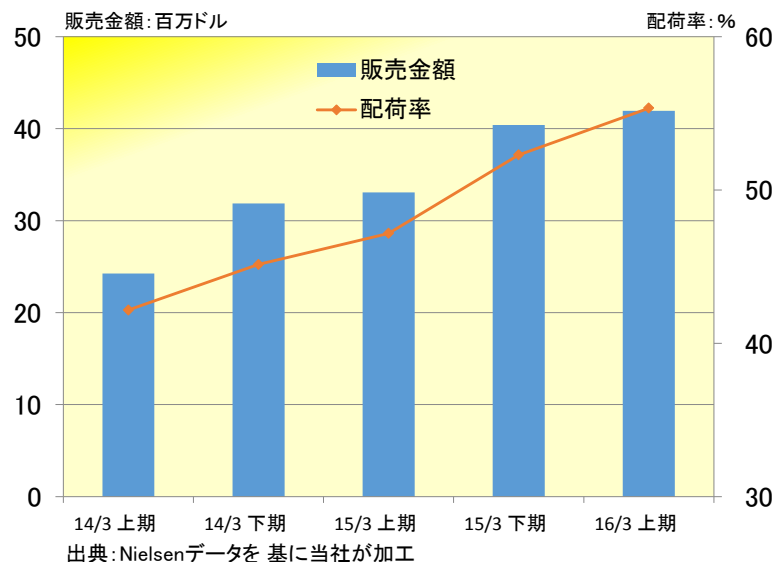
1. 家庭用調理品は引き続き米飯類の拡販を進めるとともに、消費者キャンペーンや増量企画の実行により、主力商品の回転を高める。
2. 業務用調理品は新技術を活かした秋の新商品である新「春巻」など、主力商品を中心に拡販するとともに、利益率を重視した商品施策も継続する。

米国のイノバジアン・クイジーンを軸に海外売上高が伸長

海外売上高の推移



イノバジアン・クイジーンのアジアンフーズ(家庭用調理品)の 販売金額と配荷率の推移



- 1.イノバジアン・クイジーンは家庭用商品の販売が大手量販店チェーンで引き続き好調に推移。単品別収益管理手法が浸透し、利益率も改善。下期は惣菜向けを含む業務用商品も拡販し、通期で売上高115億円、営業利益4億円(のれん償却負担後)を見込む。
- 2.GFPTニチレイは主にタイの国内販売相場の低迷により上期は大きく減益となった。相場は依然として低位で推移しているが、パーツ安に伴う輸出採算の改善に加え、スローターラインでの機械化推進によるコスト低減効果も表れ、下期の営業利益は改善に向かう。

水産・畜産事業

水産の業績は回復傾向、畜産は引き続き順調

単位:億円

		2016年3月期														
		第2四半期(累計)					第3・4四半期(累計)					通期				
		実績	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	340	-6	-2%	333	7	349	9	3%	355	-6	689	2	0%	688	1
	営業利益	1	-1	-55%	2	-1	3	3	-	3	-0	4	2	63%	5	-1
畜産	売上高	450	30	7%	418	32	431	-44	-9%	422	9	881	-14	-2%	840	41
	営業利益	3	1	57%	2	1	3	1	65%	3	-0	6	2	60%	5	1

- 1.水産はエビ加工品の利益率が改善するなど、2Qは1Qに比べ業績が回復傾向に。下期は最需要期である第3四半期に拡販を行いつつ、急な相場変動に備え素材品を中心に慎重な買い付けと回転を重視した販売を継続する。
- 2.畜産は供給不足で販売価格が上昇した国産のチキンとビーフが増収増益に寄与。下期も集荷基盤を活かし国産チキンの拡販を進める。また、好調に推移する中食ルート向けの加工品の販売を強化する。

低温物流事業

上期の営業利益は計画比大幅増、下期は計画線を見込む

おいしい瞬間を届けたい



単位: 億円

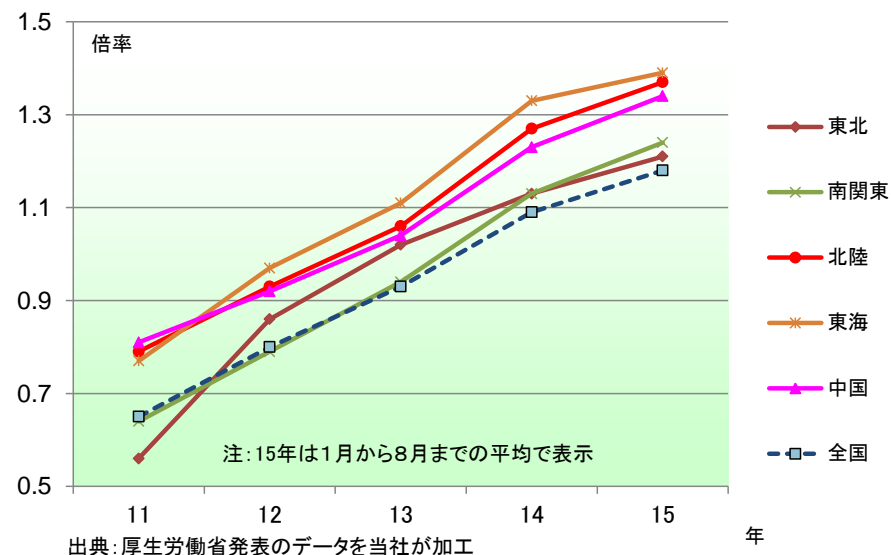
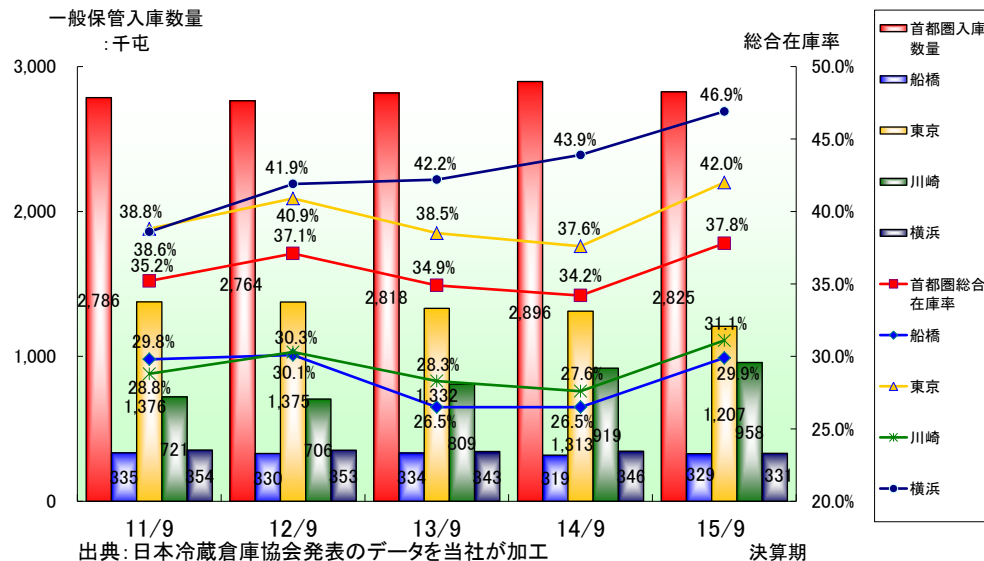
		2016年3月期														
		第2四半期(累計)					第3・4四半期(累計)					通期				
		実績	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
低温 物流	売上高計	917	27	3%	917	-0	903	10	1%	920	-17	1,820	37	2%	1,837	-17
	国内小計	745	13	2%	749	-4	720	4	1%	739	-19	1,465	18	1%	1,488	-23
	物流ネットワーク	456	-6	-1%	460	-4	441	-12	-3%	458	-17	897	-17	-2%	918	-21
	地域保管	289	19	7%	289	0	279	16	6%	281	-2	568	35	7%	570	-2
	海外	164	14	9%	160	4	166	3	2%	163	3	330	17	5%	323	7
	その他・共通	8	-0	-6%	8	-0	17	3	20%	18	-1	25	2	10%	26	-1
	営業利益計	53	12	29%	43	10	47	1	2%	48	-1	100	13	15%	91	9
	国内小計	49	11	30%	40	9	43	3	9%	43	0	92	15	19%	83	9
	物流ネットワーク	20	6	45%	16	4	18	-0	-1%	18	-0	38	6	19%	34	4
	地域保管	29	5	22%	24	5	25	4	17%	25	0	54	9	19%	49	5
	海外	6	1	21%	6	0	5	-0	-3%	5	-0	11	1	9%	11	0
その他・共通	-2	-1	-	-3	1	-1	-2	-	0	-1	-3	-3	-	-3	0	

- 国内は前期に稼働した咲洲DCの新設効果により増収。輸配送コストは高止まりしているが、運送効率化を含むコスト吸収効果に加え、東京圏を中心に在庫が高水準で推移したことで増益。下期は新たなコストアップ要因の発生もあり、営業利益は計画線で推移する見込み。
- 海外は欧州で運送の取り扱いが引き続き伸長し増収。営業利益は2Qに入りフランスとオランダの冷蔵倉庫で在庫水準が回復し増益。下期も引き続き新規顧客の獲得や既存顧客からの集荷拡大を進める。

国内事業は順調に推移するが、新たなコストアップ要因も

首都圏(業界)の冷蔵倉庫の稼働状況

地域別の有効求人倍率の推移



1. 東京団地冷蔵の建替で庫腹能力が大きく減少した東京圏の港湾地区を中心に、在庫は高水準で推移。下期も東京圏、大阪圏を中心に庫腹が逼迫した状況が継続する見通し。
2. 国内での構造的な労働力不足のなか、トラックドライバーに加え、庫内作業員不足も顕在化している。適正人員を確保しつつ、荷役作業の効率化を含めた業務改善を推進する。

參考資料

各中計期間の業績の推移

単位: 億円

	中計(04~06年度)			中計(07~09年度)			energy 2012 (10~12年度)			RISING 2015 (13~15年度)		
	05/3	06/3	07/3	08/3	09/3	10/3	11/3	12/3	13/3	14/3	15/3	16/3E
加工食品事業	1,785	1,848	1,773	1,750	1,740	1,621	1,619	1,742	1,616	1,807	1,939	1,985
水産事業	900	811	747	747	761	672	668	657	637	686	687	689
畜産事業	847	846	809	839	925	776	783	756	755	801	895	881
低温物流事業	1,167	1,271	1,341	1,387	1,423	1,390	1,394	1,495	1,564	1,684	1,783	1,820
不動産事業	92	100	79	75	74	70	66	49	47	50	47	47
その他の事業	82	87	70	63	66	69	62	60	58	37	44	49
調整額	△ 260	△ 270	△ 241	△ 226	△ 244	△ 217	△ 215	△ 210	△ 200	△ 191	△ 196	△ 200
売上高合計	4,614	4,694	4,577	4,636	4,745	4,381	4,378	4,549	4,477	4,874	5,199	5,271
加工食品事業	43	55	60	41	20	26	46	52	60	34	54	68
水産事業	△ 10	△ 17	△ 4	△ 5	3	9	6	2	1	4	2	4
畜産事業	4	3	6	6	△ 0	7	4	5	5	1	4	6
低温物流事業	36	58	72	85	82	79	73	74	86	89	87	100
不動産事業	60	61	45	43	40	37	36	24	23	24	21	21
その他の事業	2	1	1	2	2	4	4	5	4	4	6	6
調整額	△ 0	△ 1	0	1	4	7	△ 2	0	0	1	△ 0	△ 5
営業利益合計	135	160	181	174	151	168	167	162	179	158	174	200
経常利益	129	157	174	169	142	155	161	153	172	144	169	194
当期純利益	59	63	108	96	60	91	40	79	98	89	95	120
設備投資等(リース資産を含む) (リース資産を除く)	—	—	—	—	149	244	221	122	132	240	242	203
有利子負債(リース債務を含む) (リース債務を除く)	64	75	98	78	128	180	181	94	107	212	198	171
D/Eレシオ(倍) (リース債務を除く)	—	—	—	—	1,105	858	970	978	969	1,061	1,077	—
自己資本比率(%)	1,120	862	730	661	879	609	725	748	754	857	873	—
ROE(自己資本利益率)(%)	—	—	—	—	1.0	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	—
	1.2	0.8	0.6	0.6	0.8	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	—
	34.0	38.2	41.3	44.3	38.6	43.1	40.4	40.2	41.3	41.9	43.0	—
	6.4	6.4	10.1	8.5	5.3	7.9	3.4	6.8	8.2	6.9	6.8	—

注: ①リース会計基準の変更に伴い、09/3よりリース資産、リース債務をオンバランス化

②設備投資等には無形固定資産を含む

③13/3より、加工食品の売上高は、売上計上基準の変更(従来、販売費で計上していたものの一部を売上高から控除)による影響を反映

加工食品事業の売上計上基準変更の影響について

1. 売上高

【組替後】				【組替前】				【影響額】			
単位: 億円				単位: 億円				単位: 億円			
	2014年度				2014年度				2014年度		
	上期	下期	通期		上期	下期	通期		上期	下期	通期
売上高 計	2,564	2,635	5,199	売上高 計	2,691	2,761	5,452	売上高 計	-127	-126	-253
加工食品 小計	966	973	1,939	加工食品 小計	1,093	1,099	2,192	加工食品 小計	-127	-126	-253
家庭用調理品	226	236	462	家庭用調理品	292	305	597	家庭用調理品	-66	-69	-135
業務用調理品	437	446	883	業務用調理品	480	485	965	業務用調理品	-43	-39	-82
農産加工品	91	81	172	農産加工品	103	94	197	農産加工品	-12	-13	-25
海外	125	142	267	海外	125	142	267	海外	0	0	0
その他	87	68	155	その他	93	73	166	その他	-6	-5	-11

2. 営業利益

【組替後】				【組替前】				【影響額】			
単位: 億円				単位: 億円				単位: 億円			
	2014年度				2014年度				2014年度		
	上期	下期	通期		上期	下期	通期		上期	下期	通期
営業利益 計	77	97	174	営業利益 計	77	99	176	営業利益 計	-0	-2	-2
うち、加工食品	21	33	54	うち、加工食品	22	34	56	うち、加工食品	-0	-2	-2

3. 当期純利益

【組替後】				【組替前】				【影響額】			
単位: 億円				単位: 億円				単位: 億円			
	2014年度				2014年度				2014年度		
	上期	下期	通期		上期	下期	通期		上期	下期	通期
当期純利益	42	53	95	当期純利益	43	54	97	当期純利益	-0	-2	-2

営業利益の増減要因(15/3-16/3)

<加工食品事業>

単位:億円

	第2四半期(累計)		第3・4四半期(累計)		通期	
	実績	前回見込比	見込	前回見込比	見込	前回見込比
15/3期 営業利益	21	-	33	-	54	-
売上会計基準変更による業績影響額	0	0	2	0	2	0
増益要因	46	8	32	1	78	9
価格改定・商品ミックスによるコスト吸収効果	27	0	18	0	45	0
国内の生産体制強化	5	0	7	0	12	0
増収効果	4	0	5	0	9	0
集約・効率化	3	0	5	0	8	0
減価償却費増	-2	0	-3	0	-5	0
増収効果	1	-1	1	-1	2	-2
生産性改善	2	0	2	0	4	0
関係会社(GFPTニチレイを除く)の業績影響額	4	3	0	-1	4	2
物流効率化	2	2	1	1	3	3
その他	5	4	3	2	8	6
減益要因	-33	-5	-33	-1	-66	-6
円安による原材料・仕入コストの上昇	-21	0	-28	0	-49	0
原材料・仕入コストの上昇	-3	0	-3	0	-6	0
GFPTニチレイの業績影響額	-9	-5	-2	-1	-11	-6
16/3期 営業利益見込	34	3	34	0	68	3

<低温物流事業>

単位:億円

	第2四半期(累計)		第3・4四半期(累計)		通期	
	実績	前回見込比	見込	前回見込比	見込	前回見込比
15/3期 営業利益	41	-	46	-	87	-
増益要因	17	8	6	2	23	10
新增設による増収効果	4	0	1	-1	5	-1
運送効率化	3	1	0	-1	3	0
業務改善効果	5	1	2	-1	7	0
電力料の変動影響額	1	3	1	4	2	7
大都市圏での在庫増による業績影響額	3	3	1	1	4	4
欧州業績影響額	1	0	1	0	2	0
減益要因	-5	2	-5	-3	-10	-1
新增設による償却負担増	-4	1	-2	0	-6	1
輸配送コスト増(純額)	0	1	-1	-1	-1	0
庫内作業員不足への対応	0	0	-2	-2	-2	-2
為替影響	-1	0	0	0	-1	0
16/3期 営業利益見込	53	10	47	-1	100	9

2016年3月期第2四半期 連結バランスシートの変動要因

単位：億円(未満切り捨て)

科目	15/3	15/9	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,387	1,437	50	①
固定資産	2,032	2,010	△ 22	
資産の部合計	3,420	3,447	27	
〔負債・純資産の部〕				
流動負債	897	1,009	112	②
固定負債	999	889	△ 109	②
負債の部合計	1,897	1,899	2	
純資産の部	1,522	1,547	25	
(うち株主資本)	1,303	1,352	48	
有利子負債	1,076	1,059	△ 17	
(うちリース債務除く)	873	865	△ 8	
科目	14/9	15/9	増減	
設備投資等	114	75	△ 38	③
(うちリース資産除く)	105	64	△ 41	
減価償却費	74	80	6	
(うちリース資産除く)	55	61	6	

【主な要因】

- ① 売上債権+34、たな卸資産+36
(売上の増加や季節的要因)
- ② 1年内償還予定の社債+100、
社債△100(長期から短期へ振替)
- ③ 設備投資の主な内訳
 - <加工食品事業>
GFPTニチレイ 第4加工ラインの増設
 - <低温物流事業>
船橋DC 物流センターの一部建替

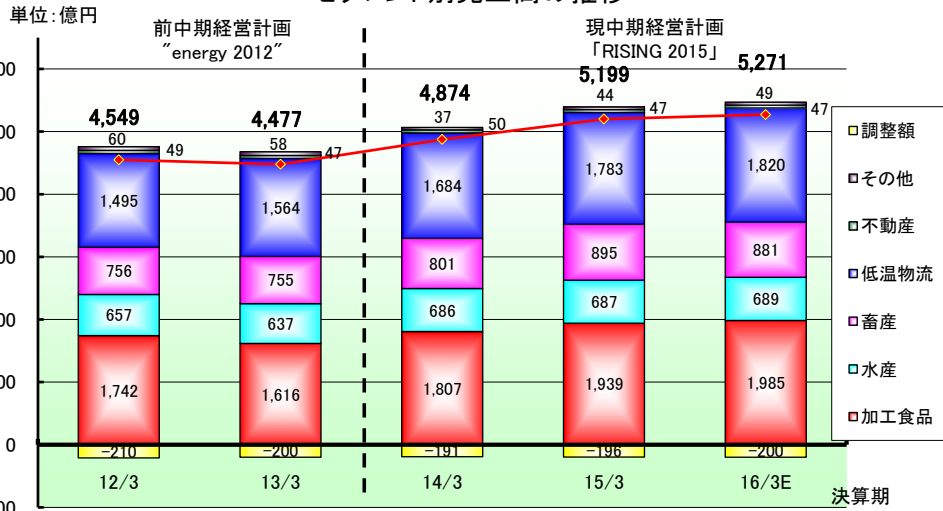
注:「設備投資等」には無形固定資産への投資を含む

2016年3月期第2四半期 営業外収支・特別損益の変動要因

単位：億円(未満切り捨て)

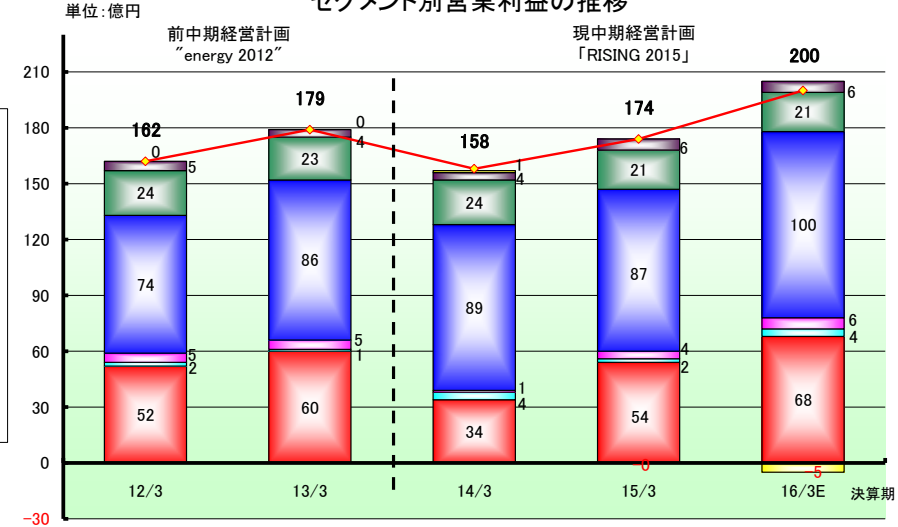
プラス表示は利益を示す	第2四半期累計			通 期		
	14/9	15/9	増減	15/3	見込	増減
【営業外収支】	△0	△0	△0	△5	△5	△0
(主要項目)						
金融収支	△1	△1	0	△5	△5	△0
持分法による投資損益	0	△0	△0	1	△0	△2
【特別損益】	△5	△4	0	△10	△7	2
(主要項目)						
固定資産売却損・除却損	△6	△2	3	△10	△5	5

セグメント別売上高の推移

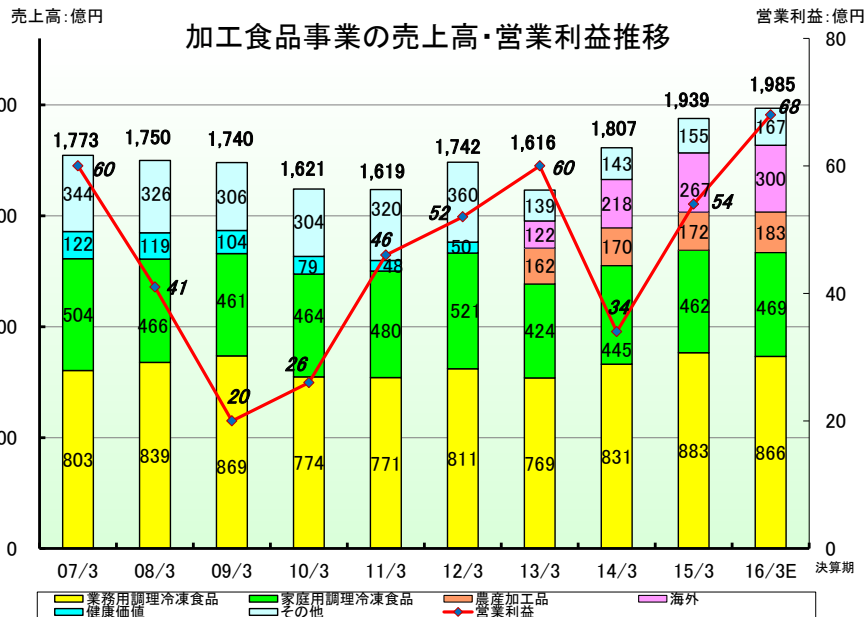


注: 13/3より、加工食品事業の売上計上基準の変更(従来、販売費で計上していたものの一部を売上高から控除)による影響を反映

セグメント別営業利益の推移



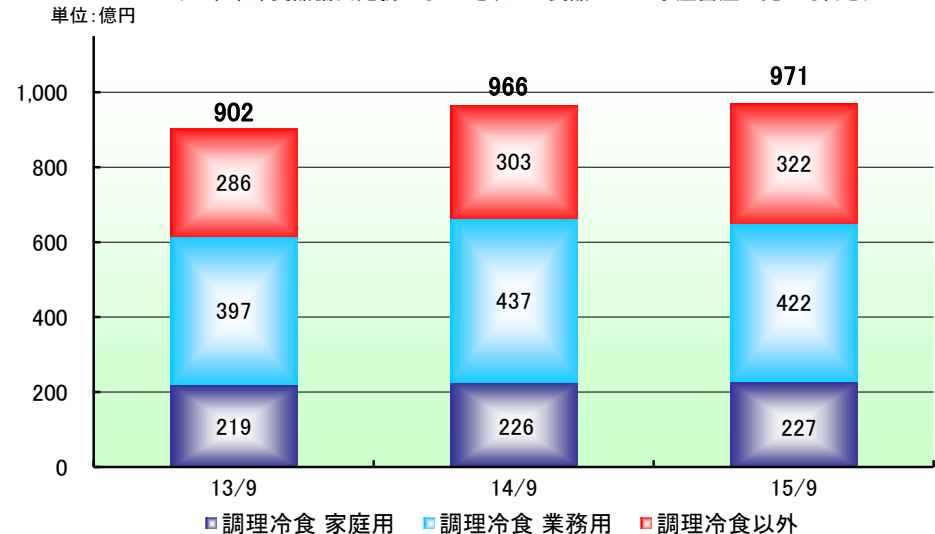
加工食品事業の売上高・営業利益推移



注: 13/3より、売上計上基準の変更(従来、販売費で計上していたものの一部を売上高から控除)による影響を反映

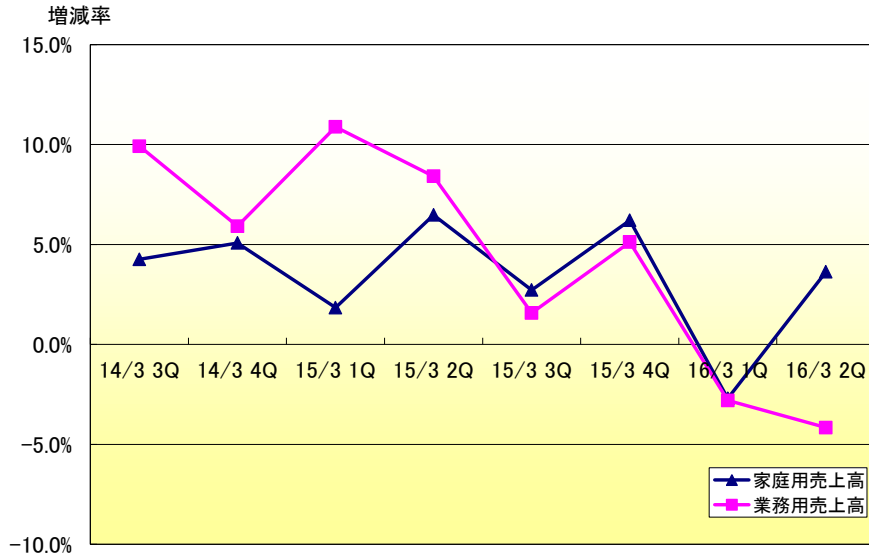
冷凍食品売上高の推移

(日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)

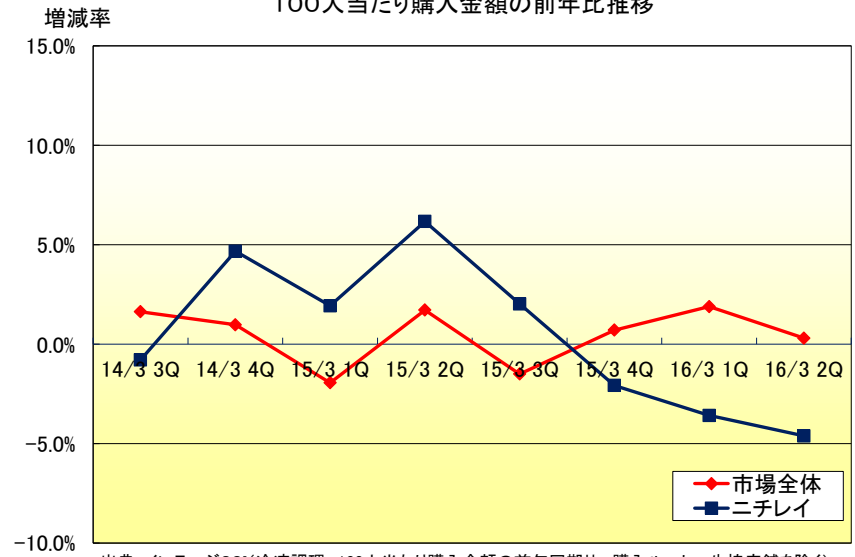


注: 売上計上基準の変更(従来、販売費で計上していたものの一部を売上高から控除)による影響を反映

当社の家庭用・業務用調理冷蔵の売上高前年比増減率推移

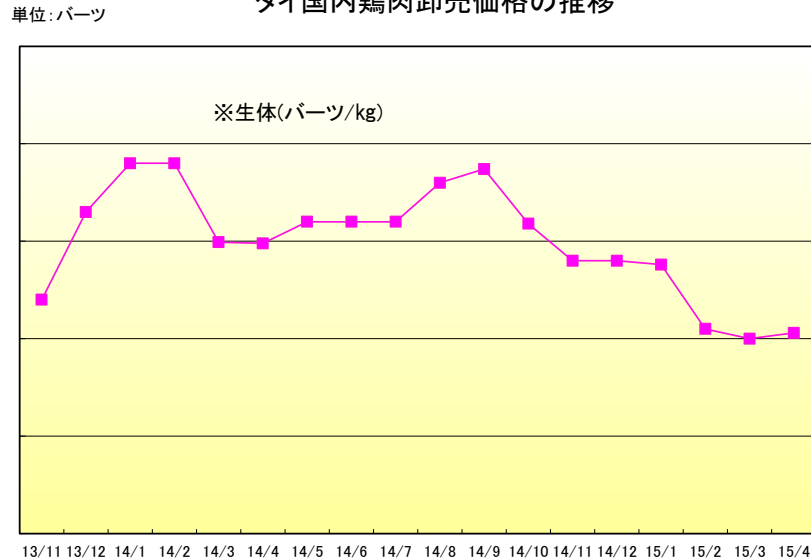


SCI 家庭用調理冷凍食品
100人当たり購入金額の前年比推移



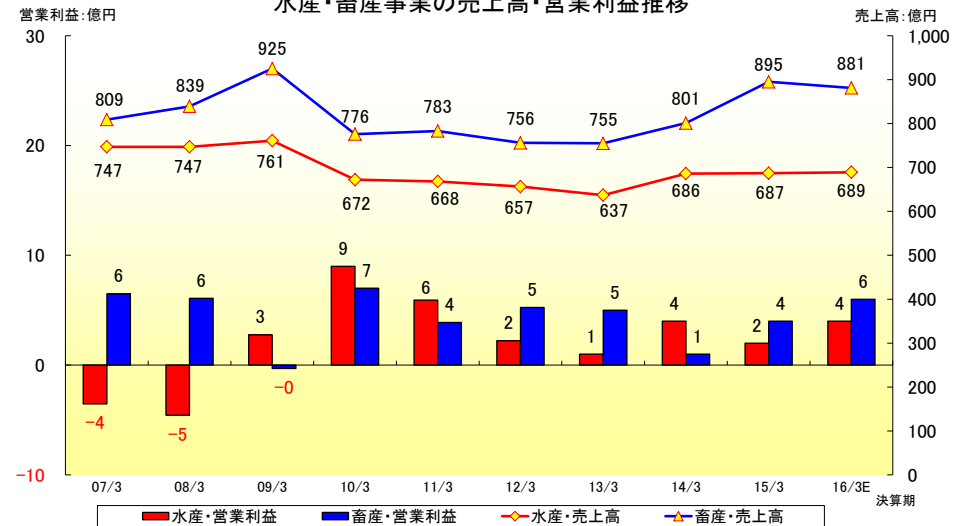
出典：インテージSCI(冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同期比。購入ルート＝生協店舗を除く)

タイ国内鶏肉卸売価格の推移

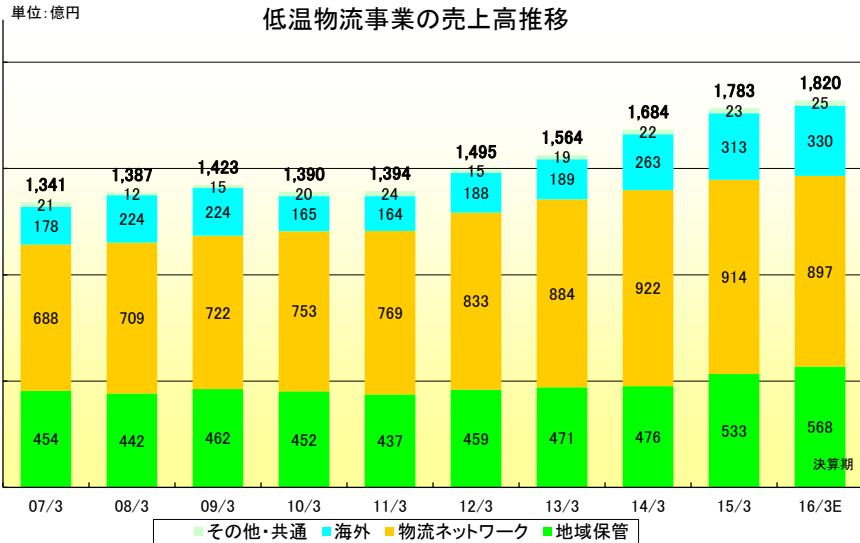


出典：(独)農畜産業振興機構(alic)発表のデータを当社が加工

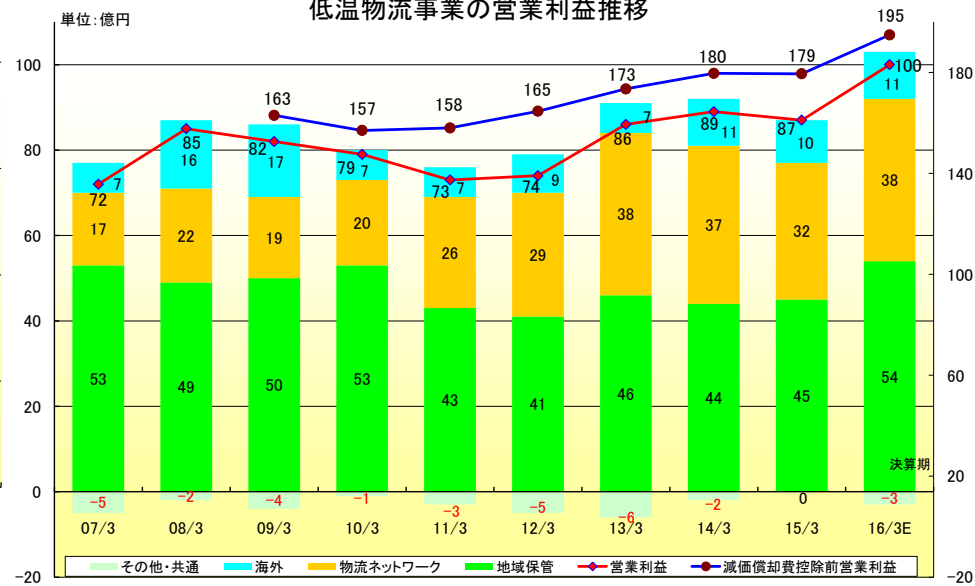
水産・畜産事業の売上高・営業利益推移



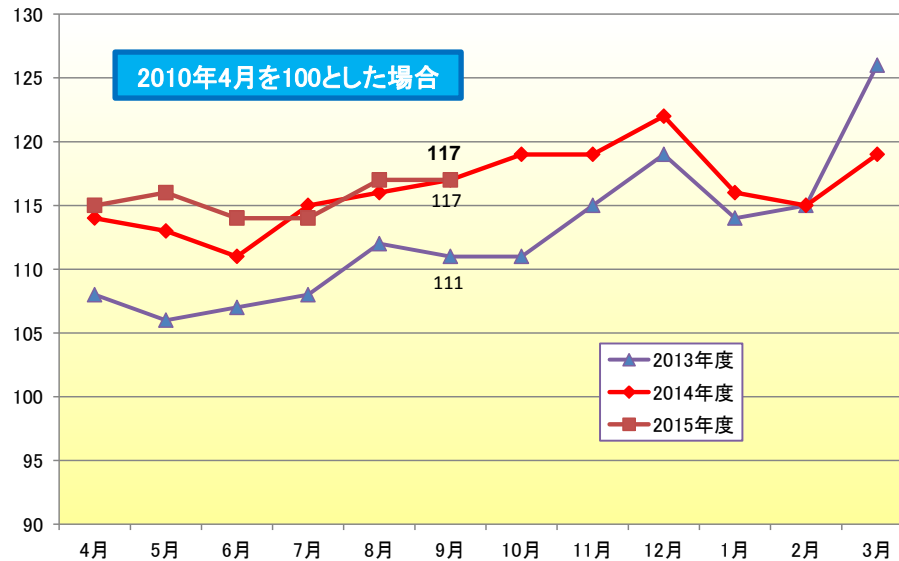
低温物流事業の売上高推移



低温物流事業の営業利益推移

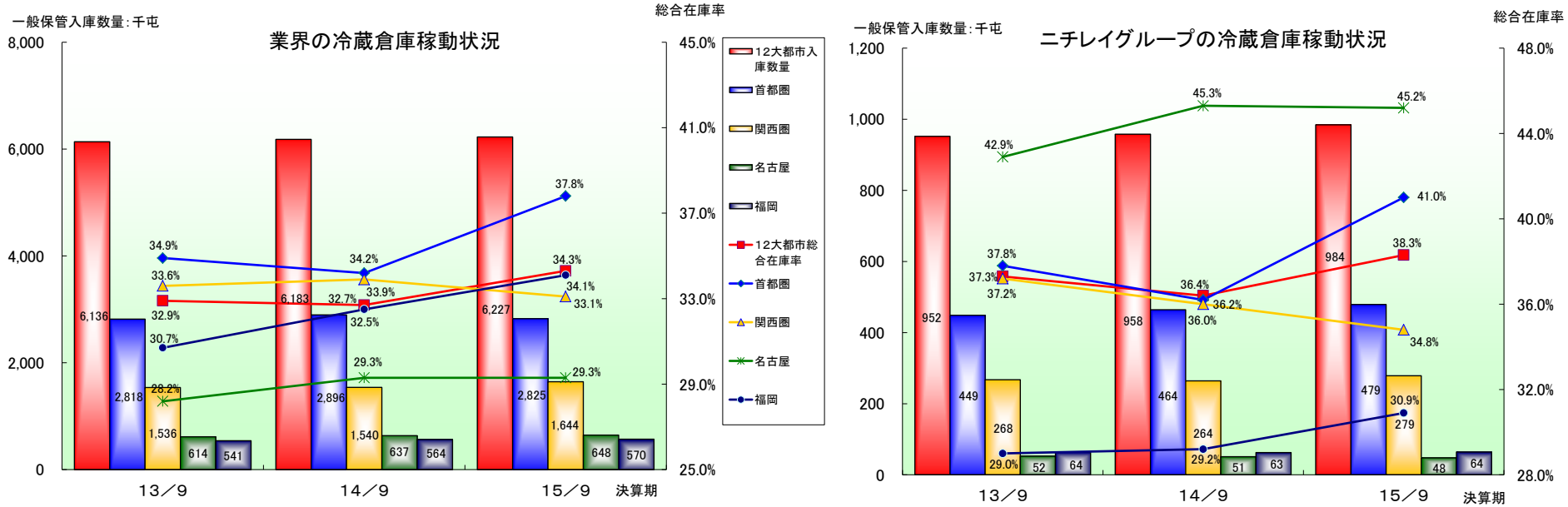


成約運賃指数(月別)の推移



出典: (社)全日本トラック協会発表のデータを当社が加工。常温を含む全温度帯が対象

冷蔵倉庫の稼働状況(業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)



注: 在庫率は冷蔵庫内の全スペースにおいて貨物が占める割合を指す。スペースには通路や作業空間などの荷物が置けない空間が通常半分程度含まれる

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。